



病児保育協議会

NEWS

第62号

2011年(平成23年)9月1日

〔発行人〕 会長 木野 稔

〔発行〕 全国病児保育協議会

〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森 4-13-17
TEL 06-6952-4778 FAX 06-6954-8621全国病児保育協議会ホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

第21回 全国病児保育研究大会 in 大分 大会特集号

第21回全国病児保育研究大会 in 大分を終えて

会頭 大分こども病院 キッズケアルーム 藤本 保



全国病児保育協議会が20年の歴史を刻み、今年から新たに第一步を踏み出すことになります。このような時に研究大会をお引き受けした最大の理由は、今後も地方での開催を続けるにあたって、誰でもが引き受けることができる研究大会のひな型になりたかったからです。今回の開催の基本コンセプトを「コンパクトに、スリムに」としました。大分という交通の便が悪い所にも関わらず、事前登録481名、当日登録11名の492名の参加がありました。また、アンケートの回収は175でした。日程について、土曜の午後から日曜の午前中で「ちょうどよい」という回答が126で、「短い」は28、「長い」が7でした。残りは無回答とその他ですが、



その他の意見で多かったのは朝から夕までの一日にしてほしいというものでした。不満の声として、感染症基礎

知識のセミナーに入れず、もっと大きい部屋を準備してほしいというものが多かったのには驚きました。全く予想外でした。当初、50から60名の参加で、多くても100名と想定していましたので、資料も足りずご迷惑をおかけしたことは誠に申し訳なく深く陳謝いたします。基礎研修のあり方や、ステップアップ研修のプログラム作成に配慮する必要があると感じました。今後、さらに成熟し、調査・研究成果を発表することがメインとなる研究大会へ成長することを願っております。

申し開きにはなりますが、スリムにするということは本来同時進行でのプログラムを作れないということです。また、コンパクトにしようするとセッションに多くの時間がとれません。しかし、欲張って教育講演とセミナーを同時進行にしてみました。これが問題であったと思います。その意味ではスリムにするという目標からそれていたわけで、今回の企画の反省点として深くお詫びいたします。皆様方には、タイトなスケジュールであわただしい思いをさせてしまいましたが、一つでも多くの成果をお持ち帰りいただければ願ってやみません。

・お知らせ・

第22回 全国病児保育研究大会 in 神奈川

子どもたちの笑顔願って - 保育室から喜び悩みを持ち寄ろう -

日時：平成24年7月15日(日)～16日(祝)

場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス

会頭：池田 奈緒子(エンゼル多摩)



病気でも子どもたちには遊びが一番、そしてそこで働くスタッフには元氣になって嬉しそうな子どもたちとお母さんお父さんの笑顔が一番です。その笑顔のために、何が出来るか、そして何をさせてもらえるかを、皆で持ち寄りたいと思います。皆さまと、神奈川でお会いできますように。お待ちしております。

会頭講演

究極の育児支援「病児保育」のさらなる発展を目指して
～ 誰のために、何を求めて ～

大分こども病院 キッズケアルーム 藤本 保

大分大会の初めを飾るのは、本会会頭であり協議会前会長による、会頭講演「究極の育児支援「病児保育」のさらなる発展を目指して」でした。

この事業の初めから、一貫して「病児保育」を「究極の育児支援」と位置づけられていた藤本会頭が、大会21回目の新たな一歩の時にあたり、最近ともすれば就労支援が全面・前面に出てきてしまっている病児保育を、もう一度原点に戻って考えてみよう、とお話をされました。

病児保育を、病気の子どものトータルケア＝発達のニーズ、身体的ニーズ、精神的ニーズ、教育・倫理的ニーズ、社会的・経済的ニーズのすべてを満たすケア、と定義され、目指すのは「病児保育」の“質”の向上であり、その“質”とは安全・安心・信頼ではないか、と説明して下さいました。

このご講演を大会の初めにお聞きし、病児保育とは

誰のためになのか、何を求めて展開されるのかを改めて考えさせられ、この2日間のあいだ常にこの事を念頭に置いて勉強していく気持ちを、新たに会場全体・参加者全員で持たせていただきました。

エンゼル多摩 池田奈緒子



基調講演

発足から20年
全国病児保育協議会の直面する課題

ほあしこどものころクリニック 帆足 英一

病児保育研究大会恒例の帆足顧問による基調講演は、協議会創立21周年目を迎えた本協議会が直面する課題を提起し、今後の指針を示す意義深い内容であった。病児保育事業が子育て支援社会のセーフティネットとしてニーズが高まる中、利用者および協議会参加施設の安心・安全を担保するように社会的責任を果たすためには、法人（一般社団法人）としての組織強化が必要不可欠である。子どもが健やかに育ち、ワークライフバランスが保たれた社会の実現に向けて、一層の奮起と重荷を覚悟するようにと激励された。

具体的な指針として、リスクマネジメントシステムの確立、自己評価制度の構築をあげられたが、結果的には施設種別（医療機関、保育所等）によらない共通部分が多いことも指摘された。その他、調査研究委員会の強化では、制度運用と財政状況について調査を行い学識経験者を交えて検討すること、また、経営委員会の設置や事務局体制の強化、さらに、厚労省や政権

党との政策協議に必要な基本的資料の作成などにも言及された。

座長を務めながらも、事務局を預かる身として、反省の一方で来年の総会までには何とか道筋が見えるようにしなければという思いで、冷や汗をかきつつ背筋を伸ばして姿勢を正さざるをえない講演であった。

中野こども病院 木野 稔



特別講演

サル社会に見る家族の絆
＝ サルの子育てに学ぶ ＝

日本霊長類学会会員・環境省 環境カウンセラー・キャリアコミュニケーター 松井 猛氏



第21回病児保育研究大会in大分ならではの講演でした。大分県にある高崎山で長年サルの飼育に携わっていた松井氏はサ

ルの子育てから集団の特徴などに至るまでを楽しくわかりやすく話をしてくださいました。

一産一児で、成長に時間がかかり、家族や仲間の影響を大きく受けて育つところは、ヒトの子育てと多くの共通点がみられます。児は母ザルにつかまって育てられるため、つかまる力がないと生きていけません。生後すぐから3ヶ月くらいまでは愛情を注ぎ母子密着期を過ごしますが、サルの赤ちゃんの消失率は24.5%で、自然の厳しさを物語っています。その後3ヶ月く

らいより遊びをして失敗を繰り返しながら成長していきます。6ヶ月くらいになるとしつけが始まり、自分の食べ物と安全は自分で確保できるように突き放され、自立を促すようです。4-5歳になったオスは群れから出て行き、優秀な遺伝子を残すために移動していきます。

集団の中でボスはえさ場を守り、安全を守ります。高崎山で最大の集団であった群れはボスが子どもを大事にしすぎたことで崩壊しました。それは人間にも警鐘となることだと話されていました。サルのさまざまな写真と松井氏の軽妙なお話を通して、ヒトの成長を考えさせられるすばらしい講演でした。

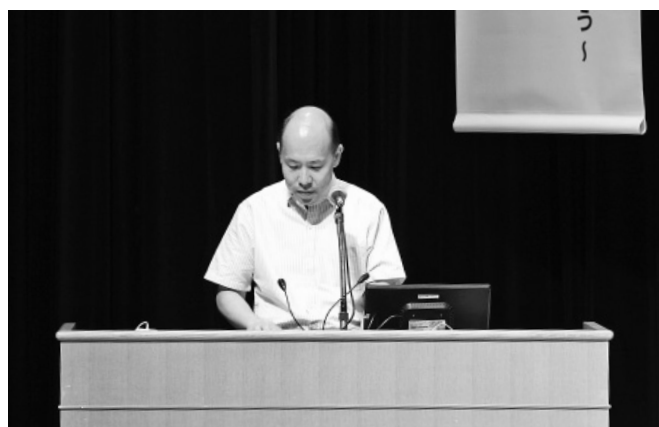
八尾徳洲会総合病院 もこもこ 神原 雪子



教育講演 I

イライラと落ち込みのセルフコントロール
～ 人間関係のストレス ～ を聞いて

福岡県立大学 人間社会部教授 上野 行良 先生



上野先生が話し始めて、あ！と驚きました。イライラしている、やる気がない、憂鬱だ、人とのコミュニケーションが面倒だ、など、あー、これは私のことだ。仕事や人間関係のストレスも多いし、特に、毎日毎日、小児科のスタッフに怒らるし…フー…(溜息)でも、

そんな私がどうすれば良いか、上野先生は分かりやすく、ユーモアたっぷりに教えてくれました。

まず、身体を動かすこと、寝る時間を充分につくること、食事のバランスに気をつけること、だそうです。

そして対人関係のストレスは、お互いの気持ちを理解できないことに根ざすので、相手の話を聞く、自分の言いたいことを伝える、あいまいや遠まわしの態度をしない、などなどアドバイスして頂きました。

ストレスまみれの私や皆様にとって、とっても有効なお話でした。

いなみ小児科 ハグルーム 稲見 誠



教育講演 II

伝えるということ、知っておくということ
～カンボジアでの体験を通して～

児童養護施設 ガーデンロイ 主任 杉村 太郎 先生



教育講演 II は穏やかに流れるメロディーとスクリーンに映る講師ご自身が撮影の子どもたちの笑顔を見ながらお話が始まりました。

杉村太郎先生は現在、大阪の児童養護施設ガーデンロイ主任としてご活躍です。2004年から3年半、所属されていたJ LMM（日本カトリック信徒宣教者会）からステンミエンチャイごみ集積所周辺に暮らす家族のための生活向上支援活動参加のため、プロジェクトコーディネーターとしてカンボジアに渡り「プティアコマ（子どもの家）プログラム」を実践し講演で報告されました。様々な事情で学校へ通えない子どもたちのために識字情操教育を行い遊びと学びの場を提供し、公立教育機関との架け橋役も担われました。レベルの高い教育プログラムではないと説明されなが

らも、なぜ教育が必要か。貧困のため学べない環境から読み書きができず、働ける環境が限られることによる貧困の悪循環が、子どもたちに明るい未来を保障できない現実となります。その象徴であるごみ集積所で、リサイクル資源を集める子どもたちの裸足の足もとに散らばる医療廃棄物の映像を見て、「何とかしてあげなければ」という思いがこみ上げてきました。

今回先生が私たちに伝えたかったこと、「何をするかではなく、まず知っておくこと」「無関心にならないこと」。講演で見聞きした、別世界に見えるカンボジアの出来事は、私たちの豊かな暮らしの裏側にある事を知っておくことが大切と話されました。

心動かされたことに関心を持ち続け、それを伝えていって欲しい。「あれはどうなったんやろ」と。自分の無力を悲観する前に、まずは自分が選んだ今の環境で何をしたか、どれだけ力を注いだか、心を尽くし共に生きたかを考える。カンボジアで子どもたちと過ごした先生からのメッセージでした。

ふじもとクリニック 病児保育室 こひつじ 岸本 範子

行政説明

厚生労働省 雇用均等 児童家庭局 保育課 保育指導専門官 丸山裕美子 先生

行政説明は、厚生労働省 雇用均等 児童家庭局 保育課 保育指導専門官である丸山裕美子先生がご講演下さいました。

最初に、子ども子育てビジョンについて簡単な説明があり、病児保育は補助金総額が3,724,000,000円と昨年に比べて総額が増えていること、国が一定の基準を設け、市町村がニーズを調査し対応するとの説明がありました。御講演のメインテーマは保育所におけるアレルギー対応ガイドラインについてでした。

ガイドラインの主なポイントは、原因治療方法などについて、関係者が認識を同じにして、情報共有すること。そのために、生活管理指導表が作られた。医師が書いた指導表をもとに、保育士が保護者と面接して情報を共有する。調理施設でのミスなどや配膳のミスなどがあり、全職員がアレルギーの状態を把握していることが必要。食物アレルギーの子どもに対しては、アナフィラキシーをおこしたときの迅速な対応が求め

られる。保育所でもエピペンの使用を求められる場面がある可能性があり、保育所職員、保護者、嘱託医との十分な協議の上で連携体制をととのえておくことが重要。エピペンを使うような子どもを保育することになった場合は、エピペンの管理について職員間で熟知し、実際のトレーニングも行っておく必要がある。などの内容でした。現場を長くご経験になった丸山先生のご講演は現場に即していて、非常にわかりやすかったです。今後、病児保育にも同様のガイドラインを導入する必要性を感じました。



まなこどもクリニック ポピンズルーム 原木 真名

基礎研修

保 育 看 護

玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 准教授 宮崎 豊 先生

保育看護の講師は今年から玉川大学の宮崎豊先生が努めて下さいました。

先生はまず、『『保育看護』の基礎を確立する』ことと『『保育行為の根拠』『記録』の見つめ直しから『保育看護』の専門性の言及を試みる』という講義の2つのポイントを挙げられました。『『保育看護』の基礎の確立』では、安全安心信頼に配慮をして基礎を確立していくこと、また、『記録の見つめ直し』では、『判断や根拠を記録していくこと』が大切であり、子どもの病気に関する知識・子どもの状態把握・子どもの発達に関する知識・子どもの遊びとその援助に関する知識・保育内容の提供・援助行為の根拠等、判断と保育行為の根拠を明確にしていくことが、次の子ども達、次の保育につながっていくとされました。

また、看護と保育の「専門性」と「連携」が支える

保育が「保育看護」と説明され、看護師・医師・保育士の「協働」の大切さもお話下さいました。

先生が観察された2歳児クラスの子どものエピソードや会場の広報委員会の展示等具体的にお話下さいましたことが、フロアーにも理解しやすかったようです。「記録」をどう生かすかというお話の中で、子どものために、保育士のために、そして病児保育のために記録を生かされることが、病児保育の専門性の明確化につながり、ひいては病児保育の専門性の社会的アピールにつながるという心強いメッセージが印象的でした。

ほあしこどものこころクリニック 帆足 暁子



基礎研修

保 育 ～保育について考えるをお聞きして～

エンゼル多摩 犬飼 恵子 先生

今回の基礎研修、基礎保育のご講演はエンゼル多摩の犬飼恵子先生にお願いしました。例年遠山先生のおかげやすいご講演は大変好評でしたが、今回の犬飼先生のご講演も優しい語り口、平易な表現を用いたもので大変判りやすかったと思います。

タイトルは保育について考えるー子どもたちの笑顔を守るためにーです。2008年に改訂された保育所保育指針、幼稚園教育要項に基づき、病時保育でも一定のガイドラインとして活用される事の重要性を示されています。また保育の役割が養護と教育の二面性を持つ複合体として捉える必要がある様です。したがってそこには保育者としての専門性が求められるています。子供の発達に関する専門的知識、子ども自から生活する上での援助に関する知識と技術、保育環境の整備、子どもの経験や興味を豊かにしていくための知識と技術などです。

講演の後半は保育の実際について具体的に解説されていました。研修を受けた保育士にも感想を聞いてみました。

(研修委員長 大川洋二)

保育園幼稚園での保育の目標、子どもの姿、保育者としての役割について丁寧に説明されていました。病児・病後児保育においても同様であり病気のケアをしながらも保育の基本を忘れず、各年齢の発達段階を良く理解して、保育士として子どもの欲求に応えていくことが大切であることが理解できました。

特に遊びを通して保育することは重要であり、エンゼル多摩では2ヶ月に一回遊びの指導計画を作成して、メリハリのある遊びを展開している点はとても参考になりました。各施設に合った保育計画、指導計画を立て、保育内容を記録して評価していくことが良い保育につながっていくと改めて感じました。

(保育士 吉田育未)



大川こども&内科クリニック OCFC 病児保育室 うさぎのママ 大川 洋二

セミナー

保育士のための感染症基礎知識

鈴木小児科 病児保育 すくすくハウス 鈴木英太郎 先生

大分大会初日。7月23日(土)に、保育士のための感染症基礎知識を臨床ウィルス学で有名な鈴木英太郎先生、病児保育感染症ガイドライン病児保育での感染症とその対策の使い方を研修委員長であり、感染症対策プロジェクトチームリーダーの大川洋二先生にお話ししていただきました。

会場は映像小ホールの名の通り、当日一番小さい会場で、それでも約100人利用できる予定でした。割り当てられた時間が65分間と短かったため、開演3分ほど前から、進行方法等アナウンスを開始したのですが、たちどころに満員で一部立ち席となり。大勢の人が入室できず、資料のガイドラインも底をつきました。準備不足でまことに申し訳ありませんでした。

次回、神奈川大会でも同様のセミナーが行われるなら、会場、時間、資料等準備を整えるべく必ず引き継ぎたいと思います。

講師はおふたりとも、内容をかみ砕き、ていねいに

お話をしたいという強いご要望でしたが、鬼のような座長の意向でご希望の約半分の時間でお話をさせていただきました。会場からは、質問も相次ぎ、クーラーが効きすぎていた小ホールも大分会場で一番ホットな熱気に包まれました。

今年の手足口病の話題や対策もお話しいただき、有意義なセミナーとなりました。参加者の熱気が冷めないう間に持ち時間も超過して、さらに皆様の関心の高いインシデント管理ソフト説明会に部屋をバトンタッチしました。



二宮病院 四日市市病児保育室 カンガールーム 二宮 剛美

インシデント管理「mims」説明会

インシデント管理プロジェクトチームリーダー・むかいだ小児科 キッズハウス 向田 隆通

協議会で長年の懸案であった病児保育室でのリスクマネジメントの標準化がやっと軌道に乗ってきました。「mims」と命名されたインシデント管理システムのソフトを開発し、大分大会で説明会を開催いたしました。

協議会で長く言い続けたせいか、説明会には昨年より多くの方の参加がありました。多くの質問もあり、具体的にすぐに使いたいけどどうしたら良いか、等の要望も多く寄せられました。パソコンに不慣れなスタッフ、忙しい合間に大丈夫か等、ごもっともな心配も寄せられました。いつも入力するわけではないヒヤリハット、インシデントです。いつも入力しないからこそ、簡単に(簡単というより躊躇しないように)入力し、かつ、入力したものを施設間で共有することが重要となります。施設によっては、同時に開発会社が開発した保育日誌システムを併用するのも良いかと思います。

今年度は全国で100施設、来年度は全施設への導入を行う予定です。1施設、2万円程度のご負担をいた

だく予定ですが、何らかの方法で負担を軽減できないものかと常任協議会で検討中です。

開発会社との契約等、まだ詰めなくてはいけない問題もあり、時間を要していますが、今年度は全国で100施設への導入を行う予定です。開発会社との契約等が済み次第、別途、協議会ニュース等でご案内いたします。



ポスター発表

セッションA

ポスター発表のセッションAでは、震災時の経験、乳幼児突然死症候群の予防、クリニカルパス導入の試み、食物アレルギー児の誤食の予防、利用者の保育室内のインフルエンザ感染についての発表がありました。

どの施設も、自施設での経験の中でヒヤリハット、インシデント等と感じたり、心配したことをテーマにされ、今後の自施設での事故防止につなげていこうとしています。

インシデント管理システムとは方法は異なりますが、立派なリスクマネジメントをされていると感心しました。また、A-3の発表は、医療分野、特に内科等他

科では当たり前になってきているクリニカルパスの導入を病児保育室に試みたものであり、インシデントが起こってから対応を考えるのではなく、日頃の保育にクリニカルパスを導入する事によって最適な保育を目指そうというものです。これらのような発表をしていただく事で、他施設のリスクマネジメントへの姿勢への刺激になり、発表を集積することにより、病児保育の分野での十分なリスクマネジメントの一面を担うことになると感じました。さらなる研鑽を期待し、他施設での同様の発表を期待します。

むかいだ小児科 キッズハウス 向田 隆通

セッションB

座長をつとめさせていただいたセッションBの報告です。

B-1 すずらん病児保育室よりの発表は自己評価シートをつかった岐阜県の13施設の施設評価アンケートの結果の報告でした。今後ますます必要とされる分野の発表でした。

B-2 センターベアーズデイサービスよりは閉所時間についての検討の発表でした。遅れた場合でも無料であり、検討がなされてからは遅刻が減少、緊急サボも利用させるようになったとのことでした。

B-3 山陽ちびっこ療育園は延長・早朝保育・幼保小学校などへの広報、子育てサークルのたちあげ、緊サボとの連携などによる情報提供、ニーズの把握によってH22年2114人に保育数が増加した報告がなされた。定員数・職員数・子育てサポート回数などの質問があり、

関心をひいていたようでした。

B-4 同じ施設よりの報告で、牛窓という過疎地に病児保育室をたちあげたところ3年間で年間目標を大きくうわまわり、子育てに貢献しているという発表でした。4歳以上の保育児が多いのが特徴だそうです。

B-5 健生病院保育室ほっとルームよりの発表は2010年度における新規利用児の動向で、近隣に新規の病児保育室が開設されてはいるが、利用人数の減少はないとのことでした。

利用するには自宅や職場からの距離が重要、情報提供の役割も大きく、預けたい時に、必ず預けられる保育室がもとめられているとの結論でした。

時間的な制約があつて十分な討論とはいかないようでした。

コスモスこどもクリニック なずな病児保育室 前田 敏子

セッションC

セッションCです。

C-1:「当施設における朝食摂取状況の調査」、早良部病児デイケアルームエンゼルさわらの清田さんの発表でした。朝食を摂取してくる子は多いものの、簡単にすませる傾向がつよく、また病気の子どもで朝食摂取が難しいときもあり、その際は朝のおやつで工夫

をしているということでした。以後は大学病院の病児保育室の発表が続きました。

C-2:「感染隔離室設置の有効性と今後の課題」京都大学医学部附属病院病児保育室の井阪さんの発表です。隔離室を新たに設置することで、利用者が増加したが、人員配置など新たに問題も生じ対応を考えてい

るという内容でした。

続けて同じ施設よりC-3:「子どもが快適に過ごせるための病児保育室の環境づくり」名越さんの発表でした。病児ということで、家庭的にゆったり過ごせるよう配慮した遊びを取り入れ、利用者に聞き取りしたところ、一定の理解が得れているとの事でした。製作は好評だが、テレビの視聴が多いことについては不満もよせられているとのことでした。

次は同じ大学病院に付属した病児保育室よりの発表でC-4:「岡山大学病児保育施設の開設1年目に実施

したアンケート調査結果」岡山大学ますかつと病児保育ルーム岡さんより自室の紹介とアンケート結果について発表され、利用しなかった人は開設時間が短い、料金が低い、年齢制限の条件が合わなかったことがあげられ、改善に取り組んだとのことでした。

時間的な制約があつてまだまだ発表と討論をしたい思いもありましたが、活発に意見交換ができたのではないかと思います。

皆様ご協力ありがとうございました。

八尾徳洲会 病児保育室もこもこ 神原 雪子

セッションD

D-1は、医科系・看護系に続き、保育系においても医療機関でのボランティアではあるが実習が始まったという発表であった。今後はカリキュラム化されるなどの発展を期待するとともに、保育士養成には、小児科との連携も必須の事になると考える。

D-2も歴史のある保育室であり多岐に及ぶ活動の発表であったが、現役および地域での保育士教育を既に実施されており、底辺の拡大とともに指導的な拠点保育室も必要となると考える。

D-3もやはり保育士教育であり、病児保育室の質の向上のためには、これら現場での工夫の積み重ね、個々の保育士の研修の発表などは、これから本協議会において活発化されていくことであろう。

D-5は大学あるいは大規模病院で今後、併設される保育室の形態を示していた。本研究大会のテーマである、さらなる発展を目指すためには、運営はさけて通れない問題である、また運営も保育士側(被雇用者)

と管理者側では違った視点での論議となるであろう。

保育対象児がいない時のスタッフの仕事と

いう演題D-4は、この双方から必要とされている問題点の一つである。運営、特に経営を考えたときに、病児保育室開設に何が支障となっているか、その解決にはどのような方法があるか、あるいは行ってきたかの報告が多数あれば、今年度の大会テーマにそった、その方向性が示せたのではと考える。

いずれも演題内容は、施設での取り組み、質の向上、施設運営、と多岐にわたったが、今後も継続して論議を重ねていかなければならない課題であろう。

しまだ小児科 島田 康



セッションE

セッションEでは、御発表の全ての演題とも有意義な内容であったと思っておりますが、座長の独断で以下に寸評を書かせて頂きたいと思ひます。

E-1の「病児保育におけるフィジカルアセスメント～目と手と耳でおこなう保育看護～」ですが、医療機関併設型以外の施設においてはとても大事な視点であると感じました。特に保護者との信頼関係の構築や囑託医などとの連携においても、今後役立つ取り組み

と思いますので、是非さらなる研鑽を積まれますようにと祈念申し上げます。

E-2の「投薬方法の検討～おくすりじょうずにのめるかな?～」ですが、最近なにかと話題になっております小児医療におけるプレパレーションにも通じるものがあり、実際にお薬を上手に飲ませるようにと手作り絵本を作成しての取り組みは素晴らしい努力であると敬服いたしました。他施設の参考になる様、今後

も取り組みから得た知見がありましたら御発表を頂きたく祈念申し上げます。

E-3の「病児保育室でORTを実施して—保育士の意識の変化—」ですが、子供の特性でもある脱水症に対する意識の向上と、点滴以外での看護を保育の立場でも実践された研究として意味のあるものと思います。かなり研究への条件設定などもしっかりされている印象でしたが、より多くのパラメーターなども取り入れてさらなる検討をして頂ければ、病児保育室だけでなく家庭での看護にも役立つものと思われます。益々の御研究を祈念申し上げます。

E-4の「病児保育室における看護・保育業務の定量的分析-1」ですが、病児保育室のスタッフの労働条件や安全性にもかかわる重要な内容を含んだ研究と考えます。若干、データーが多くて焦点が絞りにくい感がありましたが、内容を整理して、今後は他施設とも共同で研究されるなど、協議会にとっても有意義のある研究に発展するものと期待しており、是非、続報としての研究を続けて頂きますことを祈念申し上げます。

E-5の「病児保育に対する不安を軽減するために保育中の写真付きカードの作成を始めて」ですが、セッションの中で最も注目されていた御発表でした。内容が身近でわかりやすいという点が他施設にも共感を得たものと思います。実際に、プリクラ世代と思われる保護者たちにも受ける内容ではないかと思われ、今後も、このような身近の工夫から病児保育のいろいろなスタイルの参考となるものを生み出して頂きますことを祈念申し上げます。以上、私が座長を担当した御発表に関する寸評を述べさせていただきました。ぜひ、奮って機関誌への御発表や今後の研究の継続などでさらなる御研鑽をして頂ければ嬉しく思う次第です。御発表有難うございました。

(医) 童心会 よいこ病児保育室 羽根 靖之



セッションF

モーモハウスの柳井氏から「タッチケアを参考にした手遊び歌を試みて」の発表があった。子どもたちは触れたり撫でられたりすると安心し喜ぶ。保育士との信頼関係を楽しみながら高めるために有用な方法である。クローバーの近藤氏からの「接取カロリーからみた遊びの提供」は、症状に応じた消費カロリーと摂取カロリーから遊びの目安を想定する試みであった。論理的で興味深いのが、年齢や病態など様々な要因がからむため、今後さらに事例を重ねることでカロリー収支の精度を高めてまた発表して欲しい。

中野こども病院の大野氏から「病児保育室での設定保育の意義」が発表された。年齢や病気が違っていても決められた時間は遊びの主題を統一することで病児保育室が一体化する。また年齢、病気によって展開が異なるからこそ、児保育士双方の遊びの発想が活性化し、効果的保育に繋がる可能性がある。

きりんの七戸氏は「Wong-Bakerのフェイス・スケールを応用した生活状態の定量化」を発表した。たとえ病気の状態が芳しくなくても機嫌よく遊んでいられたのであれば、悪い病気でないことが多いことは現場でよく経験する。保育士の感性によって定量化された生活の状態の記載は、医療側にとって重要な情報である。

ユーネストの荒田氏から「利用回数が多い児の保育記録用紙の工夫」の発表は、頻回利用児における効率的保育看護をするために、児の情報が整理された病児保育カルテを作成するための具体的方法について言及していた。

あらいこどもクリニック 眼科クリニック 病児保育室きりん 荒井 宏治



広報委員会

第21回 全国病児保育研究大会 in 大分

「ベストショット」受賞者が決定しました！

109の施設から応募いただき、総投票数151票、みなさんの投票から下記の施設の写真が、ベストショットとして選ばれました。おめでとうございます。また、みなさんのご協力に感謝いたします。

1位



くまだ内科クリニック 病児保育室 リトルベアー (大阪府大阪市)
(賞品 10,000円のギフトカード)

2位



保坂小児クリニック 枚方病児保育室(大阪府枚方市)
(賞品 5,000円のギフトカード)

3位



糸島医師会 病児後児保育 コアラ(福岡県糸島市)
(賞品 3,000円のギフトカード)

※3位は2施設の予定でしたが、4位以下の同じ票数が複数あったため1施設とさせていただきます。

みんなにききたい！

このコーナーでは、日々病児保育に携わっているみなさんから、広くご質問とご質問に対するお答えを募集しています。

こんな時、他の施設ではどうしているのかな？ こ

次回の
Question入室中の服装はどうして
いますか？(保育士)

んなことに困っています！等のご質問をお寄せください。ご質問とあわせて、ご返答も大募集中です。

今回「みんなにききたい」コーナー投稿用紙を同封いたしました。どうぞお気軽に投稿してくださいね！



FAX:0155-67-1141 E-mail:hinatabokko-kikitai@memoad.jp
郵便:〒080-0038 北海道帯広市西15条北4丁目2-7 「ひなたぼっこ」常丸宛

第21回 全国病児保育協議会総会 議事録

日時：平成23年7月23日（土）18：40～19：10

場所：iichiko総合文化センター 音の泉ホール

1. 会長挨拶（木野稔会長より）

2. 仮議長および議事録署名人選出

仮議長として藤本保会頭、および議事録署名人として江上公康先生と鈴木英太郎先生を推薦。

◆拍手で承認された。

仮議長による議長選出

会場より立候補者がおらず、東保裕の介先生を推薦。

◆拍手で承認された。

木野運営委員長より総会成立の説明

現在の加盟施設は463施設。総会に参加する施設は58施設、委任状を提出した施設は242施設、計300施設になる。これは全施設数の過半数を超えており、総会は成立する。

3. 議 事

(1) 第1号議案 平成22年度事業報告

運営委員会（木野稔委員長より）

- ・平成22年7月17日（土）常任協議委員会（ホテルグランパシフィック 東京）
- ・平成22年9月20日（月祝）常任協議委員会（新大阪丸ビル新館 大阪）
- ・平成23年4月24日（日）常任協議委員会（T K P 東京駅丸の内会議室 東京）

各プロジェクト・チーム（P T）活動について

- (ア) 法人化P T：定款案を作成し検討を行った。
- (イ) 自己評価基準P T：基準案を作成し認証制度のあり方を検討した。
- (ウ) 20周年記念誌P T：来年度発行に向けて内容を企画した。
- (エ) 感染症対策P T：病児保育感染症ガイドライン（仮称）を作成した。
- (オ) インシデント管理P T：インシデント管理システム（mims）を全会員施設に導入すべく計画し、費用対効果を検討の上、来年度から実施することとした。
- (カ) その他
保育園型、体調不良児型の保育園の加入率を

高め、情報交換を行うために、保育園部会設置について検討、来年度から保育園型P Tとして活動することとした。

研修委員会（大川洋二委員長より）

研修委員会は平成22年9月20日、平成23年1月16日の2回行った。

第20回大会研修プログラム

基礎研修 7月18日（35分）基礎保育 遠山法子、
基礎看護 大川洋二、保育看護 帆足暁子

ステップアップ研修 7月18日（60分）

食物アレルギーを持つ病児の食事について

林 典子 先生

発達障害をどう受け止めるか 山崎知克 先生

①基礎研修テキスト

病児保育の標準化にはシラバスに基づいた基礎知識の習得プログラムが必要である。いろいろな視点からの演者の講演を聴くことも大切だが、基礎的な部分での知識・情報の統一をはかり基礎研修テキストとしてまとめることも不可欠である。今回実際に病児保育に携わる保育士、看護師のための基礎研修テキストを作成した。

調査研究委員会（羽根靖之委員長より）

(1) 委員会開催

第1回調査研究委員会（平成22年9月20日）

議事：①インシデント管理システムに関するアンケート結果の報告

②インシデント管理システムの今後の方向性に関して、プロジェクト・チームの設置を常任協議委員会に提案することに関して協議した。

(2) 調 査

平成21年度実績調査

284施設から回答を得た。

それぞれ集計し、資料とした。それぞれの回答を得た施設に集計結果を発送した。また、機関誌へ報告書を掲載して頂くことになった。

平成22年度実績調査

調査内容に関して、MLを通して委員の意見交換を行った。

(3) 研 究

インシデント管理システムの標準化、運用協議

会におけるインシデント管理システムに関するアンケート調査を8月～9月で行い、9月20日の常任協議会で報告し、後日、協議会ニュースにも掲載した。

インシデント管理システムの今後の方向性に関して、プロジェクト・チームの設置を提案して、常任協議会で承認された。その後、向田常任協議委員をチーフにプロジェクト・チームを結成して、活動して頂くようになった。

広報委員会（神原雪子委員長より）

- ①病児保育ニュース発行：会員の相互交流や協議会からの情報提供に力をいれるような内容にリニューアルした。
- ②ホームページ：情報の即時性を重視した情報提供に努めた。
- ③研究大会で広報の部屋を開設：各病児保育施設紹介を日本地図型に貼布した。
また過去の協議会ニュースを置き、配布した。
- ④下記学会にて広報活動を行った。
日本小児看護学会
日本医療保育学会
日本小児科学会
日本外来小児科学会
- ⑤委員会の開催
平成22年7月17日 東京
平成23年5月22日 大阪

機関誌編集委員会（原木真名委員長より）

機関紙「病児保育研究」創刊号を発行した。
(平成22年7月15日)

第2号を発行に向けて企画、編集、査読作業を行った。

平成22年度年会費納入状況・マニュアル販売状況

(木野稔委員長より)

入会金 166,000円（入会施設16施設・準会員3名）、
事業年会費 9,607,000円（401施設・準会員23名）、
賛助会費 550,000円の納入があった。

必携・新病児保育マニュアルの売上冊数は410冊、
10年のあゆみの売上冊数は60冊、機関誌「病児保育研究」創刊号の売上冊数は85冊であった。

(2) 第2号議案 平成22年度決算報告

(木野稔運営委員長より)

平成22年度決算について

予算対比増減に対する説明

収入の部については、機関誌発刊や機関誌広告

料収入、また事業年会費の過年度分入金などもあり、収入合計は当初予算を約130万円上回る27,429,050円となった。

支出の部の合計は、支部合同研修会補助費が75万円、印刷費が約71万円、予備費が34万円、それぞれ予算を下回り、また、インシデント管理ソフト購入費 300万円の出費が今期に繰り越しになったため等により、当初予算を約770万円下回る10,938,740円となった。したがって繰越金は当初予算を約900万円上回る16,490,310円となった。

※第2号議案 平成22年度決算報告（別記 p14）

監査報告（青木佳之監事より）

会計帳簿および関係書類を監査した結果、正確であることを認め、収入・支出および決算処理、平成22年度事業は適正に行われていることを証明いたします。

◆第1号議案の平成22年度事業報告ならびに第2号議案の平成22年度決算報告が、拍手で承認された。

(3) 第3号議案 平成23年度事業計画案

運営委員会（木野運営委員長より）

第21回全国病児保育研究大会を開催する。

(会頭 藤本 保)

平成23年7月23日～24日

(iichiko 総合文化センター 大分市)

<運営委員会>

1. 厚労省他行政機関への要望等、病児保育事業の向上に資する活動を行う。
2. 各プロジェクト・チーム（PT）について、継続して活動を行う。
一定の目途に達した時点で、常設委員会組織等に編成替えを行うことを検討する。
3. 支部会組織の充実と支部活動のさらなる活性化を目指す。

平成23年7月22日 拡大運営委員会

(大分全日空ホテル 大分)

平成23年7月23日 常任協議員会

(イイチコ総合文化センター 大分)

平成23年11月または12月（予定）運営委員会

平成24年2月または3月（予定）常任協議員会

研修委員会（大川洋二委員長より）

第1回研修委員会 平成23年4月24日

研修テキストのまとめ

第21回大分大会の演者確認

第2回研修委員会 平成23年7月22日(大分)

大分大会の基礎研修、ステップアップ研修について。研修テキストの確認

第3回研修委員会 平成23年10月

22回大会の研修プログラムの検討

研修テキストの改定について

第4回研修委員会 平成24年3月

22回大会研修プログラムの最終決定

調査研究委員会(羽根靖之委員長より)

(1) 委員会開催

第1回調査研究委員会(平成23年7月22日 大分)

議事:平成22年度実績調査の途中経過、結果報告

第2回調査研究委員会(未定)

(2) 調査

平成22年度実績調査

(3) 研究

インシデント管理システムに関してプロジェクト・チームに参画し、協議に参画する。

広報委員会(神原雪子委員長より)

①病児保育ニュースの定期発行(内1回は総会・研修会特集号)

8月(総会特集号)を含む年5回予定

②HPの拡充

関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取組の紹介

③広報委員会開催

平成23年7月22日 大分

④各学会での発表(渉外的広報)

日本小児科学会、日本医療保育学会などで発表
学会での展示ブースを利用するなどして広報活動を行う

⑤企業など関連ある事業への広報を考慮中

機関紙編集委員会(原木真名委員長より)

委員会開催:平成23年7月22日 大分

機関紙「病児保育研究」第2号の発行、および第3号発行に向けて企画、編集を行う。

(4) 第4号議案 平成23年度予算案

(木野 稔運営委員長より)

平成23年度予算案について

収入の部は事業年会費 9,500,000円、賛助会費 400,000円、入会金 150,000円、マニユア

ル・テキスト等販売代金 1,500,000円、雑収入 400,000円(これは主に機関誌広告料収入)、合計 28,440,310円という予算にしております。

支出の部ですが、記念大会補助金は例年通り200万円です。各委員会費は前年同額としております。インシデント管理ソフト関連費は、前期からの繰り越し分と併せて440万円を計上し、インシデント管理ソフト購入費用に3,500,000円、インシデントデータベース収集・配信システムに900,000円を充てる。また印刷費はマニュアル改訂版発行を予定しており3,500,000円計上しております。その他支部合同研修会補助金を100万円、各プロジェクトチーム関連費用として150万円としております。予備費は100万円とし支出合計は20,710,000円となり、繰越は7,730,310円です。

※第4号議案 平成23年度予算(案) (別記 p15)

◆第3号議案の平成23年度事業計画案および第4号議案の平成23年度予算案について、拍手で承認された。

(5) 第5号議案 一般社団法人全国病児保育協議会定款(案)

(稲見誠副会長より)

会場からの意見

・第17条の2.の総社員の半数以上であって、総社員の3分の2以上、という表現が非常に分りにくい

・第17条の2.で、社員総会の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の3分の2以上にあたる多数で行う、となっているが、そのような多数数の出席は難しいのではないかと。一度決めたら定款の変更は大変難しいので、代議員制でスタートするほうが良いのではないかと。

◆定款(案)については、各会の法人化のプロセスについて情報収集するステップが必要であり、代議員制の導入を含め協議を重ね、再度提案することが決まった。

4. 永年勤続代表者表彰が行われた。

木野稔会長より犬飼恵子さん(エンゼル多摩 神奈川県)に表彰状が授与された。

5. 第22回全国病児保育研究大会(神奈川)について、池田奈緒子次期会頭から挨拶があった。

6. 閉会挨拶 (木野会長)

以上

第2号議案

全国病児保育協議会 平成22年度決算報告

《収入の部》

	22 年度予算	22 年度実績	予算対比増減
前年度繰越金	14,814,803	14,814,803	
事業年会費	9,000,000	9,607,000	607,000
賛助会費	500,000	550,000	50,000
入会金	300,000	166,000	-134,000
マニュアル・テキスト等販売代金	1,500,000	1,778,530	278,530
雑収入（機関誌広告収入含）	1,000	512,717	511,717
合計	26,115,803	27,429,050	1,313,247

《支出の部》

	22 年度予算	22 年度実績	予算対比増減
研究大会補助金	2,000,000	2,000,000	0
調査研究委員会費	700,000	688,470	-11,530
広報委員会費	700,000	602,026	-97,974
研修委員会費	300,000	72,727	-227,273
運営委員会費	500,000	0	-500,000
常任協議員会等 会議費	1,500,000	1,348,618	-151,382
機関誌編集委員会費	300,000	0	-300,000
機関誌発行準備費	1,500,000	1,209,600	-290,400
インシデント管理ソフト購入費	3,000,000	0	-3,000,000
事務費関係 人件費	1,200,000	1,200,000	0
旅費	300,000	188,868	-111,132
消耗品費	80,000	28,478	-51,522
印刷費	2,600,000	1,886,469	-713,531
通信費	200,000	166,880	-33,120
ホームページ維持管理費	300,000	400,000	100,000
雑費	30,000	34,215	4,215
支部合同研修会補助費	1,000,000	250,000	-750,000
20周年記念プロジェクト関連費	1,500,000	204,569	-1,295,431
予備費	1,000,000	657,820	-342,180
合 計	18,710,000	10,938,740	-7,771,260
繰 越	7,405,803	16,490,310	9,084,507

第4号議案

全国病児保育協議会 平成23年度 予算 (案)

《収入の部》

	22 年度決算額	23 年度予算案
前年度繰越金	14,814,803	16,490,310
事業年会費	9,607,000	9,500,000
賛助会費	550,000	400,000
入会金	166,000	150,000
マニュアル・テキスト等販売代金	1,778,530	1,500,000
雑収入	512,717	400,000
合 計	27,429,050	28,440,310

《支出の部》

	22 年度決算額	23 年度予算案
研究大会補助金	2,000,000	2,000,000
調査研究委員会費	688,470	700,000
広報委員会費	602,026	700,000
研修委員会費	72,727	300,000
運営委員会費	0	200,000
常任協議員会等 会議費	1,348,618	1,500,000
機関誌編集委員会費	0	300,000
機関誌発行費	1,209,600	1,500,000
インシデント管理ソフト関連費	0	4,400,000
事務費関係		
人件費	1,200,000	1,200,000
旅費	188,868	300,000
消耗品費	28,478	80,000
印刷費	1,886,469	3,500,000
通信費	166,880	200,000
ホームページ維持管理費	400,000	300,000
雑費	34,215	30,000
支部合同研修会補助費	250,000	1,000,000
プロジェクトチーム関連費	204,569	1,500,000
予備費	657,820	1,000,000
合 計	10,938,740	20,710,000

繰 越	16,490,310	7,730,310
-----	------------	-----------

平成23年7月23日開催の第21回全国病児保育協議会総会議事録を確認した結果、正確であることを認め、内容に相違がないことをここに証明いたします。

平成23年8月2/日

議事録署名人

氏名： 鈴木 英太郎 印 

議事録署名人

氏名： 江上 公康 印 

保育所型プロジェクト議事録

全国病児保育研究大会 in 大分大会において、保育園型プロジェクト分科会が行われました。内容は以下の通りです。

① 設置の目的の説明とこれからの取組みについての説明

- (1) 保育園併設型病後児保育室の質の向上を図る。
- (2) 協議会への加入率を上げる。
- (3) 情報交換の場の提供、要望等の集約を行い、協議会に保育園型として提言を行う。
- (4) 保育園併設型の稼働率のアップをめざす。
- (5) 体調不良型を保育園型に仲間として迎える。

② 参加施設・自己紹介

地 域	県 名	施 設 数				計
		保育所併設	医療機関併設	単 独 型	クリニック	
九 州	宮 崎	3				3
	熊 本	1				1
	福 岡		1			1
中 国	島 根	1				1
	鳥 取	1				1
近 畿	兵 庫	1				1
	大 阪			1		1
東 海	三 重		1			1
北 陸	富 山	1				1
関 東	神 奈 川	3				3
	東 京	3			1	4
合 計		14	2	1	1	18

職 種	人数 (人)	職 種	人数 (人)
施設長	6	栄養士	1
看護師	7	臨床心理士	1
保育士	6		
合 計		21	

③ 情報交換・意見交換

<質 問>

- (1) 各施設の広報の仕方を知りたい。
- (2) 地域に医療機関併設型2軒、保育所併設型1軒ある。医師が保育所併設型に常時いない事から、保育所併設型を敬遠し「医師連絡票」をなかなか記入してくれない。

<意見交換>

- ◎統計的に1歳児の利用が圧倒的に多い。初めて保育園を利用する保護者は病後児保育施設を知らないなのでPRが大切。1つの市に1園しかない場合が多く、医師会との関係を作ることが大切。
- ◎医師会との関係も良く、情報提供書も医師は記入してくれる。保護者も情報提供書は記入してもらっても、利用をしないケースが多い。



- ◎各小児科、耳鼻科、児童センターにリーフレットを置いてもらっている。
- ◎近隣の保育園、産婦人科にポスター、リーフレットを置いてもらうことは有効である。
- ◎本来委託事業なので役所を通して広報をしてもらう事が望ましい。
- ◎町田市は市が病後児保育のポスターを作製している。園長会で情報を流し、病後児担当の看護師、保育士が年4回、会議を行う。
- ◎「医師連絡票」等の問題は、協議会の事務局と連絡をとって問題を挙げて欲しい。また一定の基準を満たした施設には、協議会の認証保育制度を与える事を考えている。
- ◎全国で補助金を受けて事業を運営している保育園併設病後児施設は345箇所ある。その殆どが全国病児保育協議会には加入していない。同じ地域の保育所併設型に声を掛けて加入を勧めて欲しい。
- ◎まだ加入していない保育所併設型施設がこの協議会に加盟しやすくなるように、保育園型プロジェクトとして活動を充実していきたいので、一緒にやってもいいよという施設があれば、施設に戻り、施設長の許可を得て積極的に参加して欲しい。
- ◎来年の研究大会前にもう一度保育所型プロジェクトで集まることも考えてはどうか。

④ 今後の取り組みについて

参加者メンバーに、これからの保育園型プロジェクトの活動に協力してもらうことを確認し、本日の議事録を協議会事務局へ報告後、参加施設に施設長宛に送付することにした。また、一緒に取り組んでいってくれる人を募ったところ、座間子どもの家保育園 看護師：菊地恵子さん（神奈川県）と渡保育園 看護師：竹本弘美さん（熊本）が名乗りを上げてくれた。今後、施設長と相談して協力できるメンバーと、これから連絡を取り合って、次年度の大会で保育園型プロジェクトの分科会ができるように、検討を重ねていきたい。その他に、ききょう保育園の山田先生より、来年6月三重県四日市で全国私立保育園連盟主催の「保育研究大会」が行われ、その中に保育所併設型の病後児保育の分科会がもたれることを情報として提供した。

リーダー 高橋 広美

施設長会議

施設長会議をはじめて今年で3年目になります。毎年、多くの施設長の先生方がお集まりくださり、時間があっという間に経ってしまいます。今年も熱いディスカッションや情報交換がなされました。その中から主なご意見、議論をご報告いたします。

1. 補助金について

◎多いところの悩み

現在2000人を超える子どもを預かっている施設は昨年度の実績調査で18施設ある。厚労省からの補助金では2000人を超える分は考慮されない。各自治体で、独自の補助金制度があったり、2000人を超える人数部分に補助があるところもあるが、補助がないところもある。自治体によって対応が違う。厚労省には2000人を超える部分の補助も考慮するように協議会から要請する。

◎少ないところの悩み

利用者が少ないが、地域のセイフティーネット的な役割を担っている施設が、補助金の改訂により補助金が減り、辞めざるを得なくなった。最低ラインの補助金を上げてもらう必要がある。協議会から厚労省に要請する。

2. 病児保育の今後のありかたについて

子ども子育てビジョンでは、病児型病後児型の補助金が増えていない。厚労省は、今後は体調不良児対応型を中心に作っていくという予定なのではないか。その危険性なども注意するべき。方向性



を注視し、協議会としての意見を厚労省へしっかり伝えていく。

3. インシデントシステムについて

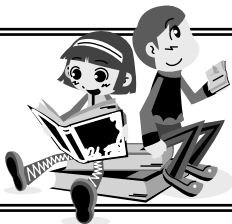
今回協議会で導入を決定したシステムの導入に関しては多くの施設から同意を得られた。インシデントシステムで病児保育室でのインシデントを把握すれば、体調不良児型で起こりうるアクシデントについても予想できる、体調不良児型も、医療機関との連携をしっかりとっていくようにする必要があることなどを、厚労省にも警鐘を鳴らす必要があるので、そういう視点からもこのシステムの導入は重要。

4. 保育所型病児保育室について

保育所型プロジェクトは今回初めて会を持った。15施設22人が集まってくれた。今後の活動に期待。体調不良児型の実情が全く情報として入ってこない。今後情報収集。

病児保育協議会 副会長 原木 真名

BOOK
・INFORMATION・



全国病児保育協議会発行の「病児保育感染症ガイドライン」(2011年度版)と「基礎研修テキスト」(2011年度版)を、どちらも500円(送料込み)で販売しています。お問い合わせは、全国病児保育協議会事務局まで。

編集後記

コンパクトに濃密にということで、今回の大分大会が開催され、盛況のうちに終了しました。残念ながら大会に参加できなかった方に、少しでも雰囲気伝われば嬉しいです。(神原雪子)

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

〔広報委員会総務〕

〒577-0802 大阪府東大阪市小阪本町1-11-3
医療法人あおぞら会 ふじもとクリニック
病児保育室こひつじ 岸本 範子 宛
TEL:06-6730-5828 FAX:06-6730-5828
E-mail:kohituj@fujimoto-clinic.org

〔全国病児保育協議会事務局〕

〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17
社会医療法人真美会 中野こども病院
TEL:06-6952-4778 FAX:06-6954-8621
担当:数田・堀込
<http://www.byoujihoiku.ne.jp>

